

香りとアートの記憶展

—香りが結ぶ、アートの体験—

○展覧会タイトル

「香りとアートの記憶展—香りが結ぶ、アートの記憶—」

○開催趣向

人の感覚機能は、「視覚」「聴覚」「嗅覚」「味覚」「触覚」の5つに分けることができる。一般的な展覧会は主に視覚のみが主役になる。しかし今回は、「香りが結ぶ、アートの記憶」をコンセプトに「視覚」と「嗅覚」を結びつけた今までにない作品鑑賞を人々に体験してもらいたい。

「嗅覚」には記憶を呼び覚ます効果があり、他の感覚機能と違って1000種類ものアンテナを持っている。香りに結びついた記憶は他の記憶よりも強く残る。また、時として鮮烈な感情を伴うことがある。この展覧会では現代美術作家による作品を展示し、その空間ごとに特徴的な香りを充満させる。本展で体験した「香り」とまたどこか別の場所、時間に出会うことによって、鑑賞した作品や感情の記憶が蘇るというのは、今までにない体験となるだろう。そして、大人はもちろん子供まで幅広い年齢の人に来てもらいたい。

大人たちの記憶には新たなイメージを加え、子供たちの感性に不思議な空間として残る、印象深い展覧会になることを願う。

○会場：福島県立美術館

○期日：2020年3月1日～5月31日

○展示

・オブジェ：42点

・絵画：24点

・香り6種類

1 干草、藁のような香り

2 ハッカ、ミントのような香り

3 囲炉裏のような香り

4 石鹸のような清潔な香り

5 バニラのような甘い香り

6 古本のような香り

←この順で展示

○香りについて

今回使用する香りは、調香師の協力を得て作成する。順番は調香師との相談により変更する場合もある。

○作品制作の依頼

1つ1つのものに対して人それぞれなんらかのイメージがあり、それはもちろん香りにもあるだろう。例えば、排気ガスや飲食店や香水などが混ざった香りがある。そのような香りを嗅いだら、多くの方はビルなどの都会の風景を思い出すのではないかと思う。しかし私はモルモットの人形を思い出してしまうのだ。それは昔、親につれられていつも住んでいる山に囲まれた場所とは反対の都会に行き、モルモットの人形を買ってもらった思い出があるからだ。その時に嗅いだのが排気ガスや香水が混ざった「都会的な香り」で、あの時の楽しかった気持ちまでもを思い出し、今でもワクワクする事がある。このように、本展でも香りにそれぞれ自分なりのイメージをもつ人がいるだろう。

今回の展覧会の作品は現代美術家に新たに制作を依頼する。作品の制作にあたって、彼らには6つの香りのうち1つの香りを体験してもらい、その体験した香りのイメージを作品にしてもらう。

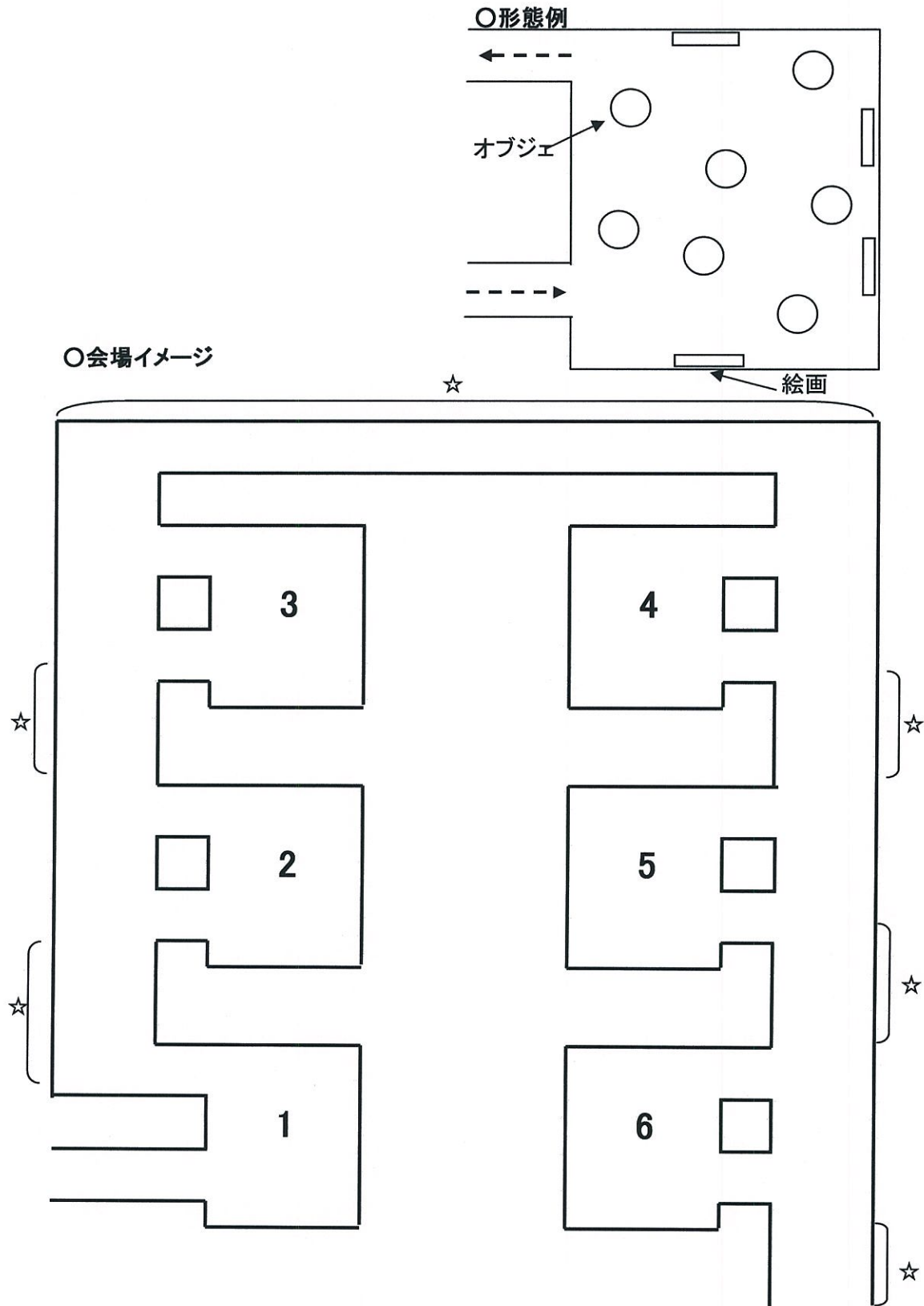
本展に訪れ、過去の記憶からイメージしていたものとは違うものが意外性や驚きを伴って目の前に飛び込んでくるかもしれない。時には、常識をくつがえし個人の記憶を押しつけて、新たな記憶を強引に作り上げるかもしれない。ある意味、記憶の根に残る強烈な展覧会としたい。そのために制作者たちには「一香りが結ぶ、アートの記憶」というコンセプトと、このことを十分に理解し、存分に香りを体験してもらう必要がある。その結果アーティストによっては耐え難い体験になるかもしれない。しかし、彼らが香りを体験し生まれた感情や記憶やイメージをアートで表現す

ることで、それを鑑賞した人々は芸術家達の追体験をすることができるだろう。来展者だけでなく芸術家にとっても、印象に残る今までにない体験の場となってほしい。

○展示形態※会場イメージ参照

6つの香りのイメージにあわせ、6つの部屋を用意する。1つの部屋につきおよそオブジェ7点、絵画4点の計11点の作品を展示する。展示形態は部屋によって変える。1つの例としては、部屋の中央付近にオブジェを数点展示しそれを囲むようにして他のオブジェと絵画を展示。オブジェは様々な角度から鑑賞できるように周りとの距離をとるようにする。また、作品鑑賞における注意として、人間は次の香りを感じ取るために30～60秒の休息が必要なため、次の部屋に入るまでの通路に今回使用した香りや、作者についてのプロフィールを作品の写真入りで展示する。

本展に訪れた人々が違う場所でまた同じ香りを体験した時、その香りがこの日鑑賞した作品やそれに伴った感情などを呼び覚ます、深く記憶に残る展覧会になることを願う。



『☆』の部分に香りについての説明や作者についてのプロフィールを展示